

# アムスメロンづくりに 夫婦二人三脚で挑む

殿山正記さん  
裕子さん夫妻



そんなときに立ち寄った島根県のアンテナショップ兼情報コーナー「にほんばし島根館（東京）」で「ご縁の国しまね就農相談バスツアー」の話聞き、早速申し込みをすることにしました。

殿山正記さんは、3年前まで神奈川県で、油槽所の副所長として、働いていました。拘束時間が長く、夜勤もある仕事に、なかなか夫婦の時間が取れず、いつか夫婦2人で一緒に仕事をしたいと考えるようになりました。

夫婦の時間を大切にしたい



## 就農までの流れ（殿山さんの場合）

平成24年8月  
「ご縁の国しまね」  
就農相談バスツアーに参加  
⇒11月に個別で再度訪問



平成25年2月～  
産業体験や就農前研修で  
農業の基礎を学ぶ



平成26年11月  
**就農**



## ふるさと納税のお礼の品として 「温泉津アムスメロン」を進呈中!

大田市では1万円以上のご寄附をいただいたかたへ、大田市の魅力ある特産品を進呈しています。「温泉津アムスメロン」も取り扱っておりますので、この機会にぜひ。

ふるさとチョイス 大田市



## トロ箱栽培とは?

漁業者が魚を入れる容器（通称：トロ箱）にヤシガラなどの培地を敷き詰め、液肥を流して栽培する方法。



就農相談  
バスツアー

就農相談バスツアーをきっかけに、全国的にも珍しいアムスメロンの「トロ箱栽培」に興味をもちました。何よりも地元農家や受入先農家の方々の人柄の良さに心惹かれていきます。

「サポートはあっても実際に育てて出荷してくるのは自分たち。このときはまだ自分たちに農業ができるか不安がありました」と話す正記さんは、この3ヵ月後に再度、大田市を訪れます。

訪れた時期が11月ということもあり、レタスの定植や柿の収穫を体験しました。この体験を通じて、不安だった気持ちから、「農業をやってみよう」という気持ちが強くなり、移住を決断しました。

現在、殿山さん夫妻は春と秋のアムスメロン、冬にはレタスをつくっています。

メロンづくり  
悪戦苦闘

今年が3年目になる殿山さんのアムスメロンづくり。

最初の年は、うまくつくることができ、つくることが楽しさを実感しました。昨年は大きな玉をつくろうと水をあげすぎてしまい、納得のいかない結果となりました。

今年目標は水の量をうまく調整して、個数を多くつくることと正記さんは話します。一緒に仕事を出来る喜びを感じながら、夫婦2人のアムスメロンづくりはこれからも続きます。

大田に住んでみて

殿山さん夫妻が大田に住んでみた感想を聞いてみました。都会の生活と比べてよかった点は、念願だった家庭菜園ができること、猫が飼えたこととうれしそくに話していました。驚いた点は、除雪車をはじめ見たこと、草刈機が1人1台必要なこと、道路の除草がしっかりされていること。不満なことは、トイレが水洗化になっていないこと、買い物に不便なこと。買物が不便なことについては、通販をうまく利用しながら、暮らしているそうです。

大田に移住してよかったかの問いに、笑顔で「よかったです」と答える殿山さん夫妻の幸せそうな顔が忘れられません。



メロンの手入れをする殿山さん



殿山さん夫妻も加盟する「温泉津町施設園芸組合メロン部会認証グループ」は、島根県内で初めてメロン産地で『美味しまね認証』を取得！

美味しまね認証制度とは？  
「安全でおいしい」を兼ね備えた産品を生産する生産者・生産方法を島根県知事が認証する制度（島根県版GAP認証）



※農林水産省ガイドライン準拠

温泉津町施設園芸組合メロン部会  
大田市温泉津町で30年以上続くアムスメロン生産者により組織されたグループ。都会からのIターン就農者の受け入れ等、生産者が中心となって活発に活動を行っています。

温泉津町施設園芸組合メロン部会  
認証グループ

